

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：一般警察活動費

事業名 国際化事業対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 刑事部 国際捜査課 電話番号：058-271-2424(内4761)
E-mail : c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,124千円 (前年度予算額： 7,254千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支 出 金	分 担 金 負 担 金	使 用 料 手 数 料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	7,254	2,168	0	0	0	0	0	0
要求額	6,124	1,872	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

「在住外国人が安全・安心に暮せる環境づくり」を目指し、県警察では在留外国人等にかかる事件事故の被害防止に取り組んでいる。一方で、当県の国際捜査官の人数は高齢化等に伴い減少が見込まれており、数年先を見据えた質の高い国際捜査官の確保が求められている。

(2) 事業内容

現在運用中の国際捜査官に対する研修を行い、捜査官の質の強化、維持を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内における国際組織犯罪の実態解明や外国人の被疑者・被害者等に対する取調べなどの捜査活動に必要な捜査官の育成に関する負担であること、他の国庫補助対象事業と同様の割合で国庫を充当していることから県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	100	在留外国人対策用消耗品費
役務費	50	資料翻訳料
委託料	5,926	国際捜査官養成（プラッシュアップ研修、語学研修委託）
その他	48	言語別研修会報償費
合計	6,124	

決定額の考え方

4 参考事項

各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

II-1-(3)-③ 外国籍の方も活躍できる社会の確立

II-2-(2)-⑤ 犯罪・交通事故防止の推進

○民間通訳人の確保と外国人と海外事情研修を通じた国際捜査官の育成

○外国人に対する防犯、交通安全情報の提供強化

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

外国人犯罪対策を強化し、犯罪や暴力のない地域を作る。
在留外国人の増加に伴う安定的な国際捜査官の育成確保により、外国人犯罪対策を強化する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
国際捜査官の推移		77人	79人			

○指標を設定することができない場合の理由

県民の安心と安全に寄与する捜査通訳活動を行うためには通訳業務の高い質が求められ、数値化は難しい。今後も研修を通じて国際捜査官の育成を行い運用を行う。

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年 度	ブラッシュアップ研修により現在国際捜査官として活躍している8人の再教養を行いスキルアップを図った。また、国内研修によりタガログ語の国際捜査官2名を育成した。 国際捜査官の捜査活動等への積極的な活用が図られ、外国人犯罪の発生時にも即座に対応することができた。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年 度	ブラッシュアップ研修により現在国際捜査官として活躍している4人の再教養を行いスキルアップを図った。また、国内研修により、トルコ語の国際捜査官2名を育成した。 国際捜査官の捜査活動等への積極的な活用が図られ、外国人犯罪の発生時にも即座に対応することができた。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 6 年 度	ブラッシュアップ研修により現在国際捜査官として活躍している16人の再教養を行いスキルアップを図った。また、海外研修により、ポルトガル語の国際捜査官2名を育成した。 国際捜査官の捜査活動等への積極的な活用が図られ、外国人犯罪の発生時にも即座に対応することができ、在留外国人等総合対策にも対応した。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)

3

県内の在住外国人数は令和2年からの5年間で1.25倍に増加しており、それに伴い捜査通訳時間数も5年間で1.17倍に増加している。これらは今後も増加する見込みで、語学力と捜査能力を兼ね備えた国際捜査官の養成を行うことが重要である。

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり

2：期待どおりの成果あり

1：期待どおりの成果が得られていない

0：ほとんど成果が得られていない

(評価)

2

国際捜査官の運用により、外国人被疑者に対する適正な取り調べ及び捜査を行っている。また、情報収集活動、災害や突発事案に対する迅速な対応が可能な体制を構築している。

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)

2

県内における犯罪情勢や運用実績を踏まえた研修内容を計画し、質の高い国際捜査官の育成に努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

県内における在留外国人は増加しており、今後も部内通訳人の育成、研修により体制を維持していく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

安全・安心な「清流の国ぎふ」づくりの実現に向けて、語学力と捜査力を兼ね備えた国際捜査官の養成は今後も不可欠である。引き続き目的別に「プラッシュアップ研修」「国外国内研修」「言語別研修会」の三本を軸に、県内の情勢を踏まえて言語を適切に選定するなど研修内容に緩急をつけ、弾力的かつ効率的な育成に取り組む。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	